



建交労鉄道

岩手地本

2021年 1月16日
NO 137号
発行責任者
須藤清成

新年2021年も宜しく願います。

ホーム・ページに掲載する予定の原稿をここに添付しますので、時間があつた時にでも眺めて頂ければ幸いです。

家を構築していく努力が必要なのでは無いかと思つています。現世代に生きる人たちは叡智を出し合い、次世代が生きられる国を構築していく努力が必要なのでは無いかと思つています。年々始早々勝手なことを書きました。また、「風のがっこう」の時間をあつた時にでも眺めて頂ければ幸いです。



明けましておめでとーございませう。今年もコロナに負けずに過ごしましょう。

岩手県一関市(旧東磐井郡東山町)デンマーク在住、環境活動家ケンジ・ステファン・スズキ氏より年賀の挨拶が届きましたので紹介します。

新年を迎え早くも10日となりました。岩手の天気予報を見ていると、寒い日が続き、雪が降っている様子ですが、お元気で新年を迎えたことと思つています。

デンマークの当地は殆ど雪もなく、暖冬の冬を過ごしています。2020年はデンマークで気温を測定して以来(1874年開始)2番目に温かい年であつたようです。「風のがっこう」でも触れましたが、デンマークの年間気温は1874年から今までに約1.5度上昇したことを伝えていきます。

気温の上昇はこの後も継続することを念頭に置き、低地に住む人たちは海水の上昇に向けて独自に水害予防策として堤防建設の計画をたて、2065年完成を目指し行動を開始しました。

デンマーク人は世界に向けて自分たちは優れているとは言いませんが、行動力において、恐ろしい程、優秀だと僕は見ています。コロナ感染問題が世界中に発生し、デンマークでも感染者の抑制対策に政府・行政は真剣に取り組んでいます。その理由は国民の生活を守るためです。

日本でもコロナ感染者数が増えている様子ですが、オリンピック開催残り7カ月、コロナ感染者を抑制しない限り、オリンピック開催は難しと見えています。

日本のニュースを毎日見ているのですが、コロナ感染者数を抑制するための政策が見えないで居ます。何れにせよ、コロナの感染問題だけでなく、次世代を育てない限り国は持続できないので、現世代に生きる人たちは叡智を出し合い、次世代が生きられる国を構築していく努力が必要なのでは無いかと思つています。年々始早々勝手なことを書きました。また、「風のがっこう」の時間をあつた時にでも眺めて頂ければ幸いです。

お知らせ

第22回地本代表者会議(東日本本部委員会)

2021春闘方針を確立するために代表者会議を開催します。

日時 2月6日(土) 13時10分～16時30分まで

場所 大宮ソニックシティ・5階会議室(501号室)

出席者 各地本代表者・東日本執行部

議題は21春闘方針(案)

1月27日
いわてローカルユニオン
盛岡地域支部
第21回定期大会

県民会館会議室

1月31日 13時30分
いわて労連大54回評議会
水産会館

2月3日 18時15分

盛岡地域春闘総会
盛岡市福祉会館

401・402会議室

人間が健康に生きて行く為に137

食と健康

日本の食の～現状～

健康な体を作る、保つ上で重要になる『食生活』『生活リズム』『環境』『心』『運動習慣』。

特に最近では、生活習慣病(日頃の生活習慣が発症原因)になる人が急増中。これらのポイントにいかにかを配るかが、健康を保つ上で非常に重要です。

中でも『食生活』はガンの発症要因となる35%に関連している(喫煙30)とも言われており、健康を保つ上で特に重要な役割を担っている。

糖尿病リスク高める朝食欠食が増加傾向

仕事の効率性、やる気(無気力)などと深い関係があり、糖尿病のリスクも高めとされる『朝食欠食』。しかし、日本人の朝食欠食人口が年々増加しており、とりわけ20～30代で欠食率が高くなっている。

20代男性	=	30%
女性	=	20%
全年齢性別平均	=	15%

「肥満」は万病のもと

女性は減少傾向も男性は増加
あらゆる病気の原因となる肥満。女性では、減少傾向にあるものの、男性は肥満傾向が増加傾向。

(20歳～60歳の3人に1人)

野菜摂取量、減少傾向

日本人の野菜摂取量の目標値は1日350グラム以上。しかし、どの年代でもその目標値は達成されておらず、そればかりか年々減少傾向にある。

原発ゼロNO 117

大飯原発3、4号の設置許可取り消し 大阪地裁判決、福井県などの住民ら勝訴

関西電力大飯原発3、4号機(福井県おおい町)の耐震性を巡り、関電が地震規模を想定する際に、過去のデータの「ばらつき」を考慮せず平均値のみで計算し、数値の上乗せを検討しなかったと指摘がなされた。規制委員が、審査過程で再考しないまま関電に許可を出したことについて「看過しがたい過誤や欠落がある」とし、新規制基準に適合するとした原子力規制委員会

の判断は誤りだとして、福井など11府県の住民ら約130人が国に対して、原発設置許可の取り消しを求めた訴訟の判決で大阪地裁(森健一裁判長)は12月4日、許可を取り消した。

東京電力福島第1原発事故を踏まえ策定された新規制基準下での原発設置許可を取り消す初の司法判断。大飯3、4号機は現在定期検査で停止中だが、住民側勝訴が確定した場合、より厳格な耐震基準で評価し直し、改めて許可を得るまで稼働できない可能性がある。

新規制基準下で許可を平均値から大きく外れたものなど「ばらつき」があるのに考慮されず、地震の規模や基準地震動が過小評価され、両機の耐震設計は不十分だと主張した。

国側は、地震を引き起こす断層の面積など別の指標を考慮して、原側主張に科学的合理性は認められないと反論していた。

関電は2013年の新規制基準施行後、大飯3、4号機の審査を規制委に申請。17年5月に合格し許可を得た。17日、大阪高裁に控訴した。判決が確定するまで、取り消しの効力は発生しない。

2021年3月ダイヤ「改正」に関する説明等申し入れ

貨物会社は12月17日、2021年3月ダイヤ「改正」について、提案・説明を行いました。

提案・説明

2021年3月のダイヤ「改正」は、「JR貨物グループ中期経営計画2023」に基づき、成長分野を中心とした需要の旺盛な区間への輸送力配置を進め、新型コロナウイルス感染拡大による経済影響や国内労働人口の減少に働き方改革を踏まえ、生産性向上や収益性向上の取り組みを進め、経営資源を有効活用するための見直しを考慮した計画となっています。

と指摘

今回のダイヤ「改正」でコンテナ列車において、積合せ貨物専用列車の新設や輸送体系の変更による収入効果を見込んでいるものの、収益性の低い列車の見直しや曜日休止列車の拡大により列車キロが減少しており、鉄道事業の黒字確保は厳しい改正といわざるを得ません。

お客様のニーズにあった列車体系の構築を提案

「組合は、鉄道事業の黒字確保は厳しい」と指摘

なことは、お客様のニーズにあった列車体系の構築を行い、収入の拡大に向け最大限に取り組むことと、列車の安全・安定

輸送の確保であり、その輸送を支える要員の配置です。

な事柄もあり、下記に改めて説明等申し入れますので、団体交渉を開催し、誠意をもって回答されたい。

要員不足の解消を求め

しかし、現場では深刻な要員不足により年休の抑制や特休の買上が発生するなど、安全な列車の運行に支障を来しかねない事態となっています。

尚、回答は文書で回答されたい。

自然災害による鉄道への影響も深刻なものとなっています。今年度は令和2年7月豪雨により九州地方を中心に鉄道貨物輸送に大きな影響を受けました。

3. 今回のダイヤ「改正」において、収益性の低い列車の見直しや曜日休止列車の拡大を行っているが、今後も列車の統廃合を行っていくのか明らか



の疑問点や意見について、貨物会社と論議しましたが、その中で未だ不透明

に、新規採用者数と退職者数を支社別・年度ごとに明らかにされたい。また、2021年度の新規運転士及びDL転換の養成計画を明らかにされたい。

また、シニア社員の要員としての基準を明らかにするとともに、現在

討されたい。

イヤ設定の問題、増加傾向にある線路使用料は、当組合が再三指摘している「第二種鉄道事業者」に起因するものであり貨物会社独自では解決できない課題です。今後このような問題をどのように解決していくのか明らかにされたい。

至福の冬の里山

黒森山(837メートル)

細川忠雄

山に入る目的はピークを踏むことだけではない。ただ山にいらる。そのことを楽しんで感じられるとき、人は山に対して心を開いている」(笹本稜平・著「南極風」より)

12月15日9時30分、今年最後のジョيوفル登山。須藤夫妻・佐々木(ふ)・藤谷・細川の5人は氷点下4度の虫壁登山口をスタートした。林道

分岐から深沢コースに入った直後、登山口を30分遅れで出た佐藤会長が私

たちに追いついた。年齢に合わないスピードだ。「近道でも来たんだらうか？」と

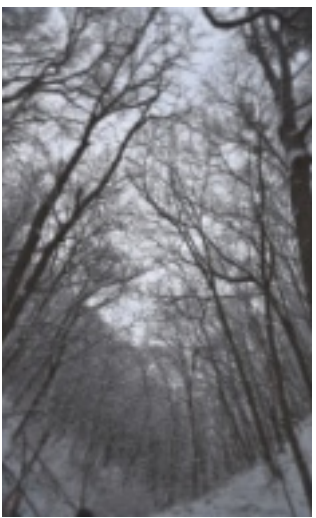


虫壁登山口

全員がそろったところで深い沢を進む。溪流のせせらぎとプチ氷柱、巨岩に張り着く緑の苔と白い雪の帽子、上を見上げる

とができた。頂上まであと450メートルの案内板あたりから急登で靴が雪でスリッ

作家笹本稜平の言葉借りれば「山に對して心を開くことができた山行」であった。美味しく晩酌を飲めると思いついた。健康診断結果がAと判定されていたので、さらに美味しく飲むことができ



ホワイト・ツリー

「正月のたわひや」 ナイスショットを受けとめる年

T・H

昨年、新型コロナウイルスの厄災により、世の中が悶々とした1年だった。一方で、パンデミックが、今の世界に存在する構造的な不平等を露出させ、社会の変換を模索する動きが起きた年だった。

「あなたに受け取ってほしいのは、人々が議論を始めること」と述べた。ナイスショットだった。「みんなであらう。そして議論しよう。それを日本人は苦手(嫌い)といわれる。」

小生も、退職後、しかもコロナ禍でおろそかになっていた。こういつた時代だからこそ必要なことかもしれない。

「何となく、今年はいよいよ事ある」とし。元日の朝、晴れて風無し(石川啄木)。世界中の人々がよい年でありますように。



深沢コース

り初めて5分後、細川が3時に家族を迎えに行くことを思い出し、Uターンとなった。新任記念の山頂は次回、晴天日のお楽しみとなった。復路、沢でランチ。食べ終わる頃は手の指が動かない



ホワイト・ツリー